

平成24年度 第1回 国立大学法人鹿屋体育大学経営協議会 議事要旨

1. 日 時 平成24年6月28日(木) 10時00分～12時00分

2. 場 所 鹿屋体育大学管理棟2階「大会議室」
東京サテライトキャンパス「講義室」

3. 出席者 [学内委員] 福永、小見、松下、倉田、黒川の各委員
[学外委員] 上治、岡崎、小舘、小林、丹下の各委員

4. 列席者 飯田、富岡の各監事、
川西、齋藤、田中、前田(明)の各学長補佐

5. 内 容

(質疑の○は学外委員の発言を、●は学内委員及び学内者の発言を示す。以下同じ)

議題に先立ち、福永委員長から、4月1日付け就任の前田(明)学長補佐(学生支援担当)及び國宗財務課長の紹介があった。

1) 前回議事要旨確認

平成23年度第4回経営協議会の議事要旨(案)について確定された。(資料1)

2) 審議事項

(1) 平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書について(資料2)

小見委員から配付資料に基づき、平成23事業年度の業務の実績に関する報告書について、項目別の状況については、年度計画を上回って実施していると評価した項目数は3箇所、年度計画を十分に実施していると評価した項目数は38箇所であること等の説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

(2) 平成23事業年度に係る財務諸表等について(資料3)

黒川委員から配付資料に基づき、財務諸表(平成23事業年度分)について、決算により生じた当期末処分利益の全額36,691千円を目的積立金とするための申請を行う予定であること等の説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

(3) 平成25年度鹿屋体育大学概算要求について(資料4)

黒川委員から配付資料に基づき、運営費交付金対象事業(プロジェクト分の継続1件、新規5件、基盤的設備等整備分の更新1件、新規2件)及び施設整備費補助金事業(2件)、並びに施設費交付事業(1件)の要求内容について説明があり、学内において調整の上、最終的には学長に一任する

こととして、審議の結果、原案のとおり了承された。

(4) 国立大学法人鹿屋体育大学役員及び職員の給与の臨時特例に関する規則の制定について（資料５）

黒川委員から配付資料に基づき、「国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律」に定める「第三章 国家公務員の給与の臨時特例」及び関係政令等に準じて、「国立大学法人鹿屋体育大学役員及び職員の給与の臨時特例に関する規則」を制定することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

3) 報告事項

(1) 国立大学法人筑波大学との連携協力協定の締結について（資料６）

福永委員長から配付資料に基づき、４月２６日に国立大学法人筑波大学と連携及び協力に関する協定を締結したことの報告があった。

(2) 平成２４事業年度における会計監査人の選任について（資料７）

黒川委員から配付資料に基づき、文部科学大臣から本学の会計監査人として「有限責任監査法人トーマツ」を選任した旨の通知があったことの報告があった。

(3) 平成２４年度重点プロジェクト事業経費について（資料８）

黒川委員から配付資料に基づき、平成２４年度の重点プロジェクト事業経費の配分４６件が決定した旨の報告があった。

(4) 平成２４年度科学研究費助成事業の採択状況について（資料９）

黒川委員から配付資料に基づき、平成２４年度の科学研究費助成事業（以下「科研費」という。）の採択件数は２８件で、配分額は直接経費３６,４００千円、間接経費１０,９２０千円であったことの報告があった。

- 採択率が約５０％というのは全国的に高い方ではないのか。
- 新規の採択率は全国平均と同程度である。近年のスポーツ健康科学分野の採択額は全国上位である。
- 科研費に申請する研究課題は、教員個人の重点研究分野に基づくものか。
- そのとおり。
学内の重点プロジェクト事業にも組織（プロジェクト等）又は個人で取り組む事業があり、科研費獲得のための実績となる事業もある。

(5) 平成２３年度地球温暖化対策の実施状況について（資料１０）

黒川委員から配付資料に基づき、平成２３年度における本学の地球温暖化対策の実施状況について、

温室効果ガス排出量は、対平成 19 年度比マイナス 9.61%であり目標の 2 倍以上削減したこと等の報告があった。

4) 学内外の諸情勢について

(1) ロンドンオリンピック出場者について(資料 1 1)

田中学長補佐から配付資料に基づき、ロンドンオリンピックに出場する本学関係者について報告があった。

- ロンドンオリンピックの壮行会は実施しないのか。
- 6 月 2 2 日に本学水野講堂で実施した。

- 「Kanoya 2013 大学案内」の表紙の選手は、スポンサー名が多く入ったユニフォームを着ているが、大学のユニフォームを着用した写真を使用したほうがいいのではないか。
- 今後は極力そのようにしたい。

(2) 学生の競技成績について(平成 2 4 年 3 月～5 月)(資料 1 2)

田中学長補佐から配付資料に基づき、本年 3 月から 5 月における学生の競技成績の報告があった。

(3) 平成 2 3 年度卒業・修了者の就職状況について(資料 1 3)

松下委員から配付資料に基づき、平成 23 年度の卒業生及び修了者の就職状況について報告があった。

(4) 平成 2 4 年度在籍学生数について(資料 1 4)

松下委員から配付資料に基づき、平成 24 年 5 月 1 日時点の本学在籍学生数について報告があった。

(5) 平成 2 4 年度スポーツ振興くじ助成事業総合型地域スポーツクラブ自立支援事業等の決定について(N I F S スポーツクラブ)(資料 1 5)

川西学長補佐から配付資料に基づき、NIFS スポーツクラブにスポーツ振興くじ助成事業総合型地域スポーツクラブ自立支援事業及び総合型地域スポーツクラブマネジャー設置支援事業助成金の交付が決定した旨の通知があったことの報告があった。

5) その他

(1) 平成 2 3 年度第 3・4 回経営協議会での意見・提言等に対する回答について(資料 1 6)

事務局(企画・評価室長)から配付資料に基づき、前年度第 3・4 回本会議での学外委員からの 4 件の意見・提言等に対する本学の対応について報告があった。

(2) 平成 2 4 年度の経営協議会開催日程について(資料 1 7)

事務局（企画・評価室長）から配付資料に基づき、今年度の経営協議会の開催日程等の説明があった。

(3) 平成24年度国立大学改革強化推進事業について（資料18）

福永委員長から、「平成24年度国立大学改革強化推進補助金」に、本学から「鹿屋体育大学と筑波大学の連携による体育・スポーツにおける共同専攻の設置」及び『九州「大学 IR 機構」九州地区の国立大学法人（10 法人）等における評価・IR 人材の育成とシステム情報のネットワーク構築』の2件を提出した旨の説明があった。

(4) 大学改革実行プランについて（資料19）

黒川委員から、文部科学省から公表された「大学改革実行プラン」について説明があった。

- 体育系大学教員の博士号取得率は低い。実践系の教員に限ると、更に低くなる。本学の特徴及びミッションの再定義にも関係してくることであり、博士号取得率を高めることは、大学改革強化推進事業を必要とする背景の一つだ。
- 国際的な舞台に目を向けてみると、発言できる日本人が不足している。国際人養成は必須の状況となっており、世界のスポーツ界をリードするプログラムの作成も検討してみてもどうか。
- 賛成である。
- 筑波大学との連携調書に記載してあるが、事業内容にある育成される人材として「国際機関で活躍できる人材」、修了者の進路として「国際オリンピック委員会」等を想定しており、国際人の養成を念頭に置いた計画になっている。
- 筑波大学とのマルチサポート事業について説明すると、セーリング関係を中心に協力して事業に取り組んでいるが、今年度が最終年度になるかもしれない。
- セーリング関係の体制を充実させるため、日本セーリング連盟とのコンタクトを積極的にとったかどうか。
- 日本セーリング連盟の会長ともよく話をして取り組みたい。
- 大学改革実行プラン及び大学改革強化推進事業とは大学を整理・統合して縮小する動きなのか、或いは大学の力を発揮させるため強化する動きなのか、ご意見をお聞かせ願いたい。
- 文部科学省の説明によると、統合・再編ありきではないが、結果としてそのような形もあり得るかもしれない。
- 大規模大学との連携となると吸収合併ということが危惧されるがどうか。
- そのようなつもりはない。
- 主体性を発揮しつつ、連携・協力していくことを意見として申し上げる。
- 本学は国立大学で唯一の体育大学である。設置の趣旨に基づき建学し、理念も作り上げた。

この理念に向かって教職員が一体となって努力していくべきだと考える。

- オリンピック選手の輩出及び健康科学分野でリーダーシップを発揮できる人材の育成等、実績はあるのでホームページ等で情報発信をした上で補助金等の申請を行えば効果的だと考える。
- 学術を中心とした大学の基盤を作っていくという、学長の方向性を大切にすべきだと考える。
- 競技の場だけではなく、スポーツ界の国際会議等の舞台で活躍できる人材育成も検討してはどうか。
- 体と心を扱う体育学の必要性は今後益々高まり、そこに携わる人の機能強化こそが最も重要なことだと考える。

(5) 7月末で任期満了となるため、今回が最後の会議出席となる小林委員から挨拶があった。

以上